

SDGs 先進活動紹介

企業向け 太陽工業が事例発表 県セミナー

県内企業のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みを促進する県主催のセミナーと交流会が3日、松本市中央2の信毎メディアガーデンで開かれ、先進企業の事例発表で、諏訪市の金属加工工業、太陽工業の林道明経営企画部長が社内の取り組みを発表した。（日比野真由美）

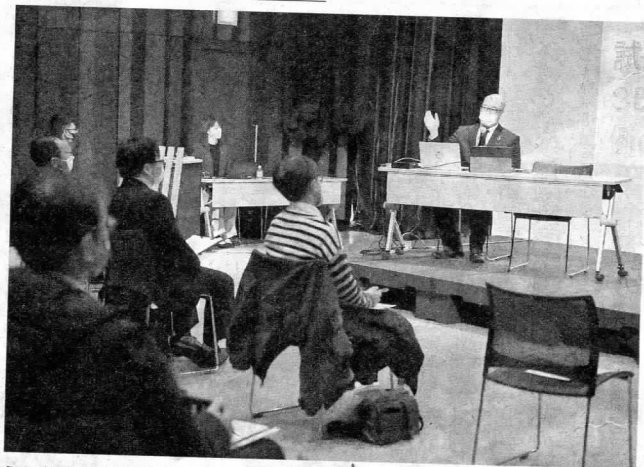
県は2019年度に「SDGs 推進企業登録制度」を創設し、エントリー企業は先月末現在で1822社。年々増加し産業界への理解の広がり、手応えを得ているものの、「社員個々への浸透に苦慮す

る声も多く聞く」（県産業労働部産業政策課）。セミナーはその支援の一環で今年度は3回目。会場とオンラインで70社余が参加した。

太陽工業では社員へのSDG理解浸透のため徹底的に

研修会を開き、試験制度も創設。林部長は「生産性向上や不良低減など経営課題とSDGsを関連付け、日頃から行っている管理指標に組み込むことが大切」と強調。社員の提案への予算付け▽子ども食堂の開設▽諏訪湖や自社周辺の清掃▽学生のキャリア教育の受け入れ▽漕艇部の創立案などの実績を挙げた。

活動を通して「課題を自分ごととして捉えて主体的で利他の精神があふれる、燃える



↑ 実践例と進め方のポイントを紹介する太陽工業の林部長

に変わる機会」と提言した。

このほかの事例発表では、塩尻市の木、竹製品の製造卸販売、酒井産業が二酸化炭素排出量削減実績の可視化や地元の桜保護活動への参加など取り組みを紹介した。

「県と同課は「企業内での理解浸透を支援しつつ、SDGsを要に新たな企業間連携を生む場も設けていきたい」としている。

「よるリーダーが生まれる。仕事への姿勢も変わった」と述べ、「SDGsへの取り組みは企業によって必要な『自ら考え自ら動くことができる共創型のパートナーシップ』